

# 昭和60年度 和歌山県文化功労賞

なかにしひさお  
中西久夫 (筆名 神坂次郎)

住 所：和歌山県和歌山市

出 身 地：和歌山県有田市

生 年：昭和2年

## ◎業績及び経歴

昭和18年陸軍飛行学校に入学、のち飛行戦隊に配属される。

戦後は、俳優座演出部などに籍をおいたが同33年、長谷川伸氏の知遇を得て「新鷹会」同人となり作家活動に入られる。

昭和36年日本文芸家協会会員、同49年三田文学会会員となる。

昭和45年に紀州のための異色の大作「紀州の方言」を10余年がかりで完成されるなど、郷土和歌山を題材にした作品が多い一方、明るくユニークな作風の歴史・時代小説も数多く、昭和59年に刊行の「元禄御畳奉行の日記」は各界の話題となりベストセラーになっている。

又、氏自身鹿児島・知覧の特攻基地に配属された経験から特攻隊員の生きざまを描いた「今日われ生きてあり」を本年発刊されたが、亡き戦友へのレクイエムとも言える作品で大きな反響をよんでいる。

## ■主な表彰歴

昭和50年 和歌山県文化奨励賞

昭和53年 第1回大衆文学賞

昭和57年 日本文芸大賞

昭和59年 地域文化功労者表彰(文部大臣)